

令和5年度 自己評価・学校関係者評価書

学校法人富塚学園 湖東幼稚園長 山口 崇
 学校関係者評価委員長 古橋 彩乃

1 幼稚園の教育目標

・やる気のある子 ・けじめのある子 ・思いやりのある子

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

・指導計画の改善

3 評価項目の達成及び取組状況及び今後の課題への取り組み方法

（評価 A・・・良い B・・・やや良い C・・・成果なし D・・・悪い）

評価項目	結果	理由及び改善策	関係者評価
教育課程・指導	B	<p>昨年度の自己評価における改善策として、幼児の発達の側面から育ちの姿を明確にするため、月の指導計画を「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」「異年齢」「食育」の領域に分け、領域ごとのねらいや内容、環境構成を計画していった。</p> <p>こうした見直しにより、各領域のねらいに基づく指導計画を立案しやすくなり、保育者が環境構成する視点となった。</p> <p>ただ一人一人の発達の姿が異なるため、個に応じた計画を立てることが難しく、保育者の援助が不足していた場面もあった。</p> <p>そのため、集団の中で個に応じた適切な保育ができるよう、一人一人の発達の姿をより深く理解し、活動の展開に応じた柔軟な計画を策定していく必要がある。</p>	B
教職員の資質・連携	A	<p>指導計画を学年で話し合い、保育の振り返りを行っていくことで、今の子どもの成長の姿や課題について共通理解していくことができた。</p> <p>特に「異年齢」の活動を他学年と連携しながら計画していくことで異年齢の交流が増え、保育者が異年齢の関わりを意識することが増えた。</p> <p>また「おひさま通信」の作成は子どもの一人一人の良さや、成長の姿を振り返る機会となっており、子ども理解を深めることにつながっている。</p>	A

保護者との連携	B	<p>保護者とお話しをする時間を大切に、子どもの様子を伝える中で信頼関係を築き、保護者が相談しやすい雰囲気づくりを心掛けた。ただ、お迎えや課外教室等で直接お話できる方以外の保護者にも、園の様子をお伝えできるよう個人懇談の機会などを通じて平等に配慮していきたい。</p> <p>おひさま通信では友人関係や、挑戦してできたこと夢中なことを取り上げ、その子らしいエピソードを分かりやすくお伝えしようと心掛けた。</p> <p>ドキュメンテーションではクラスの出来事をお伝えしようと心掛けている。ただ、子どもたちが持つ関心は様々であるため、クラス全体ではなく一部の子ども達の関心として取り上げることもあり、年間を通じて全ての子どもの姿を取り上げられるよう、保育者が子どもたちの日々の関心を汲み取っていけるよう心がけていく。</p>	B
保護者アンケート	A	<p>149 家庭（回収率 75%）から回答を頂き、多くの評価項目で A または B 評価を頂けた。また自由記述として「ドキュメンテーションやおひさま通信で、園の様子や家とは違った姿を知ることができて嬉しいです」や「自宅でも園の事をよく話しています。毎日楽しそうなのが伺えます」他、造形展のご感想など、多くのコメントを頂くことができた。</p> <p>その他、園外への散歩の機会がもう少しあった方がよいというご意見や、自ら進んで挨拶を行う生活習慣を身に付けることも課題として挙げられているため、来年度の指導計画の課題として改善を行っていく。</p>	B

4 学校関係者評価委員会からのコメント

領域を分けた指導計画を明確に保護者へも周知展開してくれて今年度の取組は保護者が園で子ども達がどの様な目的のそと保育活動をしているのか分かることができた。子ども達にとっても先生方にとっても保護者にとっても良い改革だったのではないかとと思う。

また、異年齢の交流も深まり、子供から「お兄さんとお姉さんが……」と幼稚園で異年齢の子との関わりを話してくれる場面が増えたと思う。

ただ園の様子を話してくれないお子さんの家庭では実感のないままなので、また園の様子を今後たくさん発信してほしい。

保護者アンケートについて、氏名を無記名にしているものの字や提出の

タイミングなどで記入した保護者が特定されやすいのでは？とマイナス面の記入をためらう方もあるとのこと。その点の工夫をしいたけると良いと思う。

先生方の保育計画や振り返りによる反省等を実施することで次年度の活動に活かしていることが分かり先生方の向上心や熱意がとて伝わった。全ての先生に感謝の気持ちでいっぱいである。